

(1) 和歌山刑務所の矯正教育事業に対する支援活動：

・ **支援対象：**和歌山刑務所（所在地：和歌山市加納 現在女子受刑者約 680 名収容）

・ 支援内容：

(1) 刑務所の年間行事への会員参加：

- ・ 3月のひな祭りカラオケ大会
- ・ 8月の盆踊り大会
- ・ 10月の運動会
- ・ 不定期の演芸会、他

(2) 受刑者の処遇全般にわたる支援：

1986年以降20年間、毎年約10万円の予算で物品購入支援。

菓子、綱引き用ロープ、バレーボールネット、カラオケテープ、レーザーディスクカラオケ、演台、回転焼き器、まんじゅう、運動会用品、書籍、他

・ 特筆事項：

(1) 和歌山中ロータリークラブは1985年に創立されたが、クラブとして最初の社会奉仕活動が和歌山刑務所への記念碑建立及びひな祭りへの支援・参加であった。

(2) クラブとしての矯正事業支援に対し、1997年7月法務大臣表彰を授章。

(3) 和歌山教誨事業後援会への参加：

刑務所内での教誨活動をしている教誨師会（当クラブ会員3名が教誨師として活動）を支援するため、平成2年6月に和歌山教誨事業後援会を設立するにあたり、当クラブ会員20～30名程度が設立時から参加し、運営に協力した。現在運営に参加している会員は10名程度であるが、昨年まで野口会員は副会長を務め、守安会員、速水会員は毎年会計として決算に協力している。尚、設立の目的は教誨師が受刑者に対する教誨活動に専念できるよう、教誨師会の運営に必要な金銭的な負担を軽減することであった。そのために年会費1万円を各会員より集め、教誨師会に援助している。

・ 会員個人によるボランティア活動：

クラブとしての奉仕活動に加え、現在4名の会員及び会員夫人がボランティアとして矯正事業を支援している。

4名の方からの報告レポートを原文のまま下記に引用します。

活動内容について

特筆事項

「これまでの活動を振り返って」「今後の課題・夢」

(1) 柳瀬昌孝会員：

教誨師任命・・・昭和53年（1978年）1月1日拝命

月2回活動

1回は命日供養と法話（プリントを印刷し出席者に渡す）

1回は写経と法話

これは般若心経を書かし、精神の安定を図り、心の修行に務める。これにより自分を省みて、自分が如何に愚かであったか、又出所後の更生のための基を教え、心の迷ったときに写経をして落ち着いて判断できる準備をさせる。

法話は、命日供養と同じく各人に渡し、部屋に持ち帰り読み返すように指導する。これにより出席しなかった人にも見せることが出来、教誨の価値をあげる。

1. 1987年(昭和62年) 7月 6日 大阪矯正管区長表彰
2. 1994年(平成6年) 11月21日 全国教誨師連盟総裁表彰
3. 1997年(平成9年) 9月10日 法務大臣表彰
4. 2003年(平成15年) 9月 5日 日本宗教連盟理事長表彰
5. 2004年(平成16年) 4月29日 藍綬褒章受章

最初は話だけで済ましていたが、果たして彼女らは頭に残っているのか、いないのか解らず済ましていましたが、なんとか彼女たちの気をひく方法はないものか、と考えた挙句、教育統括にお願いをして一人一人にプリントを渡し、部屋に持ち帰り何度も繰り返し読んでもらっている。

夢については、彼女たちは何時かは社会復帰するわけですが、一人でも多く再度刑務所の厄介にならず、まじめに仕事についてもらいたいと念願しています。

(2) 松本宣光会員：

宮本会長の推薦で2001年2月より受刑者の覚醒剤教育に行っていた。

2001年10月より教育課の細水統括のはじめた対人関係教育の講師として参加した。1グループ10～15名で集団カウンセリング。1回90分、5回行う。

所内で話の出来ないお互いの秘密を自由に話し合い、自分・仲間・司会者・カウンセラーと一緒に考えていく方法をとっている。

現在まで10グループ以上行った。覚醒剤、窃盗、殺人、様々な方々である。

2005年7月21日に大阪矯正管区長感謝状を授与される。

刑務所の機関紙「刑政」に実践レポートとして発表、好評であった。

1) 作業所では私語禁止。部屋では話せないことを自由に話していた。話すことで苦悩をある程度軽減できたのではないか。自分の考え、他人の意見、カウンセラーの意見で考えも変わり、進歩にも繋がったと思われる。もちろんこの場の話はお互い部屋に持ち帰らないことを約束させている。

2) まだ思考の段階であるが、他の刑務所へも波及すればと考えている。

(3) 小嶋克己会員夫人 小嶋里美様

2001年4月より体操指導の一環として、1日に2回、月2回(計4回)の割合で、エアロビクスの要素を取り入れた「運動とストレッチ体操」を行っております。

なし

運動の苦手な人もあり、最初は立っているだけということもありましたが、そのような人でも何回か行っていく内に体を動かす様になり、嬉しそうに体を動かして楽しんでいただいている様子を見てみると、大変なやりがいと思います。

(4) 宮本裕史会員

柳瀬会員の推薦がきっかけ。1998年1月より大阪矯正管区長の委託により篤志(とくし)面接委員として、外国人受刑者のカウンセリング(個人面接及びグループ面接)を毎月1回、1時間～1時間半実施。これまで担当した受刑者の国籍は、フィリピン7名、タイ3名、イスラエル2名、ドイツ2名、他 ナミビア、ネパール、ユーゴスラビア、ベルギー、スイス、マレーシア、ニュージーランド、オランダ、英国 計約25名。

1. 2000年7月 大阪矯正管区長表彰
2. 2004年6月 大阪矯正管区管内篤志面接委員研究会におけるパネルディスカッションでパネラーとして発表
3. カウンセリングの他、教育部門の依頼により、下記の印刷物を作成：
 - * 外国人受刑者向け入所時ガイダンスブック 英語版

* 所内アナウンス英語解説書

* 「自己改善マニュアル」英語版

1. いつも感心させられる点：

英語が母国語でなく不得手な受刑者でも、自分の意見を表現しコミュニケーションを図る為に、必死に英語を話そうとする積極性にはいつも感銘させられる。

2. 必ず出てくる質問：

「面接委員は自分の為に一体何をしてくれるのか？何か権限を持っているのか？」これに対してはいつも「私の唯一の権限は、月に1度自主的に刑務所に来て、あなたの話を聞くことができるということです」と答えるようにしている。

3. 課題：

受刑者たちは今人生で最も活字に飢えており、且つ和歌山刑務所には外国語の書籍が少ないので、是非書籍を充実させてあげたい。

(個人としては月1～2冊のペースで寄贈している)

(2) 国際ボランティア組織KNOWの会 (Kokusai Volunteer Network Of Wakayama, 当クラブ 大平洋和会員会長)の活動支援：

- ・ 当クラブ主催 国際交流パーティーへの招待
- ・ 外国人による日本語スピーチ大会・新春国際交流パーティーへの参加・交流
- ・ 活動資金の支援

<2005年9月16日開催の国際交流パーティー>



(3) 和歌山中ロータリークラブ育英会：

和歌山市内及び近郊在住の外国人留学生に対し、奨学金支給・例会へ招待。

1996年以来17名の留学生を支援。(現在奨学金支給は休止中)